

四

洋

十

三

二編

三

西洋事情二編卷之三

福澤諭吉 梢輯

佛蘭西

史記

佛蘭西ノ國名ハ羅甸語ノ「フラン」ヨリ轉シタルモノニテ「フラン」シトハ羈絆ヲ脱スル人ト云フ義ナリ往古羅馬ノ世ニハ此地方ヲゴールト唱ヘシカ羅馬ノ衰ニ及テ日耳曼ノ諸方ニ在リシ蠻野ノ種族羅馬ニ叛テゴールノ地ヲ侵略シ自カラアランクノ族ト名ケリコレヲ佛蘭西國名ノ始トス

紀元四百八十六年「フランクノ首長ニコロウスナル者アリ年甫テ十九羅馬ノ鎮臺シアグリスヲ擊テ大ニ之ニ克チ羅馬ノ羈絆ヲ脱却シテ獨立ノ躰裁ヲ成セリ此人ヲ佛蘭西ノ始祖トシ此血統ヲメロウサンゴヤノ世ト稱スコロウス死スルニ及テ其四子國ヲ四分ニ各其一ヲ領シテヨリ忽ナ内亂ノ端ヲ生シ爾後數十年ノ間兄弟相攻メ骨肉相食ハノ亂ニ陷リ王室ノ權威次第ニ衰微セリ昔者日耳曼ニ於テ有功ノ士将ヘハ斧鉞又ハ軍馬ヲ賜リテ其功ヲ賞スルノ風習ナリシガ「フランクノゴール

ニ移リシヨリ此例ヲ廢シ軍功ヲ賞スルニハ斧鉞軍馬ノ代ニ采地ヲ以テセリ固ヨリ此采地ノ賜モ唯本人生涯ノ間ノミテテ死後ハ復タ政府ニ返ルノ法ナリシカニ年代ノ沿革ニ從ヒコレヲ子孫ニ傳フルヲ許シテヨリ遂ニ封建世禄ノ勢ヲ成シ世禄ノ貴族愈盛ナルニ従ヒ王室ノ威權次第ニ衰ヘ紀元六百年代ニ至テハ國王ハ唯其名位ノミヲ存シテ實ノ威力ナク朝廷ノ政權盡ク大臣ノ手ニ在リ此時ニ當テ大臣ペセンディリストナル者アリアウスタラシヤノ地ヲ領スルニ二十七年威權最

モ強盛内外ノ事皆其裁斷ヲ仰ガサルモノナシ國王ハ宮中ノ囚俘ニ異ナテスペゼン死ニテ其子トレスマルテル父ノ位ヲ襲キ屢々軍功アリ紀元七百四十一年マルテル死シテ其子ペペン祖父ト立同名此時ニ當テ羅馬ノ法皇希臘及ヒロンバルドニ窘メラレテ皇威日ニ衰ルノ勢アリベゼン此機ニ投シ竊ニ法皇ヲ助ケレフヲ約シ法皇ノ勅許ヲ得テ佛蘭西王チルデリククヲ廢シ自カラ國位ニ昇レリ此血統ヲ「カラウエンジヤ」ノ世ト稱ス「メロウエンジヤ」ノ家是ニ於テ亡ヒタリベゼン即位ノ後兵ヲ出

シテ羅馬ヲ援ケロシバルド及ヒ希臘ト戰テ頻リニ克チ其地ヲ取テ法皇ニ與ヘリ紀元七百六十三年ペピン死シテ長子チャーレス位ニ即ク後コレヲチャーレマント稱ス蓋シチャーレス大君ノ義ナリ其天稟文武ヲ兼備シ兵ニ將タレハヨク敵ニ勝チ政ヲ施セハ國ヨク治マル在位ノ間羅馬法皇ト好コ厚クシ四鄰ノ國ヲ攻テ勝タザルコナシ佛蘭西日耳曼ノ兩國ヲ一統シ伊太里ノ南方モ太半其版圖ニ歸シタリ紀元七百九十九年法皇第三世レヲ亂賊ノ爲ニ羅馬ヨリ逐ハレテ佛蘭西ニ出奔セリ佛

王コレヲ遇スルゝ甚タ厚々護送シテ本國ニ返シ
翌年親カラ兵ヲ卒ヒテ羅馬ニ入り國亂忽チ平定
セリ法皇コレヲ悅ヒ「チャーレマン」ニ帝位ノ冠ヲ着
ケ羅馬帝ノ稱号ヲ附與セリ爾後コンスタンチノ
ポルノ君ヲ羅馬東帝ト稱シ「チャーレマン」ヲ羅馬西
帝ト稱セリ紀元八百十四年帝崩ス年七十二歳ナ
リチャーレマン在世ノ時ニ國ヲ三分シテ其三子ニ
興ヘタレバ長子二人ハ帝ニ先ツテ死タルヲ以テ
少子ロイス帝位ニ昇レリ蓋シ國ヲ割テ兄弟ニ分
與スルハ古來佛蘭西ノ流弊ニテ毎ニ争亂、端ヲ

開キシコナレ氏「チャーレマン」イ英明ナルモ尚コレ
ヲ改ルヲ知えス幸ニシテニ子ノ早死ニ由リ内亂
ヲ見サリシガロイス帝イ世ニ至リ又其覆轍ヲ踏
ミ果シテ一國ノ争亂ヲ釀セリ帝ニ三子アリ長子
ヲロゼイルト云フ伊太里王ニ封ス次子ヲロイス
父トト云フ日耳曼王ニ封ス第三子ハ則ナ父ニ繼
テ佛蘭西王ノ位ニ即ク名ヲ「チャーレス・ゼ・バルト
云フ爾後兄弟五ニ兵ヲ構シテ争亂止ム時ナシ君
上ノ權威日ニ衰ヘ封建ノ貴族次弟ニ跋扈シ天下
ノ人更ニ王室アルヲ知ラスコレヨリ先キ北方ノ

東狄ニハルマニト稱スル種族アリ其本國ハ今ノ
 遊國及ニ瑞典等ニ當レリ此夷民舟ニ乘シテ屢佛
 蘭西ノ沿海ヲ掠亂シ佛人ノ窘メラル、ノ年既ニ
 久シ紀元九百年代ノ初ニ至リ佛蘭西王チャーレス
 ゼ・シンブル西北ノ地ヲ割テハルマニニ興ヘ其女
 ラハルマニノ酋長ロルロニ嫁シテ和ヲ求メタリ
 ハルマニノ人ハ此土地ヲ得テ益强大ヒ勢ヲ成シ
 所領ノ地ヲハルマニナト唱ヘ名ハ佛蘭西ノ管轄
 内ニアレ凡其實ハ獨立ノ一強國ニシテ國內衆貴
 族ノ上ニ位シ嘗テ王命ニ從フオナシ爾後ハルマ
ノ國力漸

ク盛大ヲ極メ紀元一千六十六年其君ヰルレム英
 國ヲ征シテコレヲ服従セシメタリ即チ今ノ英王
 ハルマニ右ノ如ク王室ノ威權日ニ衰ルヲ以テ
 ハルマニノ後裔ナリシ右ノ如ク王室ノ威權日ニ衰ルヲ以テ
 日耳曼ノ人モ佛蘭西ニ叛キサクソニノ君ヲ奉
 シテ帝位ニ即カシメリコレヨリ羅馬西帝ノ稱号
 ハ日耳曼ニ歸シチャーレマンノ餘業ヲ繼テ日耳曼
 帝ノ名始テ起レリ○チャーレス・ゼ・シンブル位ヲ廢
 セラレブルゴンヂーノ君ロドルフ位ニ昇リタレ
 フ王威嘗テ行ハレス慢ニ王土ヲ割テ貴族ニ與ヘ
 一時其臣服ヲ買フノミ此時ニ當テパリスノ君
 ノゴナル者アリ其叔父エウドス嘗テ佛蘭西ノ半

國ヲ領シテ王ト稱シ爾後其名稱ハ廢シタレ氏其實ヲ失ハスチャーレス・ゼ・シン・ブルノ位ヲ廢セラレシ代モニヨーゴ之ニ代ル可キノ威名アレ氏故サラニ王位ヲ辭シテロドルヲ立テロドルヲ死スルニ及テ又他ノ君ヲ撰テ位ニ即カシメ已レ自カラ國權ヲ執レリ斯ノ如クスルヲ三世ニシテ紀元九百八十七年第五ロイス王ノ死ニ至リニヨーゴノ子ヒューゴ・カペト始テ佛蘭西王ノ位ニ昇レリ此血統ヲカペチャレノ世ト稱ス蓋シ其名ヲ始祖カペトニ取りシモナリ○カペチャレノ始祖ヨリ今帝

ニ至ルマテ歴代ノ順序ト即位ノ年ヲ示スヲ左ノ如シ

十	千	十	千	十	千	十	千	十	千	十	千	八	三	二	三	六	三	六	三	四	三	五	二	年			
十	千	十	千	百	百	百	百	百	百	百	百	八	七	七	七	六	六	六	六	六	六	六	二	年			
十	千	十	千	百	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	七	第一世ヘンリック	二	年												
十	千	十	千	百	二	第八世ロイス	第七世ロイス	第六世ロイス	第五世ヒリップ	第四世ヒリップ	第三世ヒリップ	第二世ヒリップ	第一世ヒリップ	二	年												
十	千	十	千	百	二	ヒリード・オーダグスキュス	二	年																			

第二世 ジヨン

第九世 ナーレス

第五世 キーレス

第三世 ヘヌリ

第六世 ナーレス

第四世 ヘヌリ

第七世 ナーレス

第十三世 ロイス

第八世 ナーレス

第十四世 ロイス

第九世 ナーレス

第十五世 ロイス

第一世 フランシス

第十六世 ロイス

第二世 ハスリ

第十七世 ロイス

第三世 フランシス

第十八世 ロイス

第四世 フランシス

第十九世 ロイス

第五世 フランシス

第二十世 ロイス

第六世 フランシス

第二十一世 ロイス

第七世 ナーレス

第二十二世 ロイス

第八世 ナーレス

第二十三世 ナポレオン

第九世 ロイス

第二十四世 ナポレオン

ヒューゴ・カベト國位ニ即キカナヤンノ世系コ

第二十五世 ナポレオン

ニ始ルト雖氏封建ノ貴族諸方ニ割據シテ王命ニ

第二十六世 ナポレオン

従フ者ナシ加之カベトノ天稟中人以上ノ人物ニ

第二十七世 ナポレオン

非テス唯ヨク世事ニ通シ退テ守ルノ策ヲ為スノ

第二十八世 ナポレオン

ミ紀元九百九十六年カベト死シテ太子ロベルト

第二十九世 ナポレオン

立ツ其為父ニ異ナラス爾後二世ノ間ニモ記ス

第三十世 ナポレオン

可キ事件ナシ是時に當テノルマニノ勢益盛大ヲ

第三十一世 ナポレオン

致シ南ハ伊太里ヲ攻テ之ニ克チ北ハ英吉利ヲ伐テ其國ヲ一統シ又歐羅巴諸國ニテ耶蘇宗ヲ奉スルノ君ハ神征ノ師トテ大軍ヲ出シテパレ、スマインノ地ヲ攻メ財ヲ費シ人ヲ殺シ國力疲弊セザルモノナカリシガ獨リ佛蘭西ノ君ノミ靜ニ國ヲ守リ嘗テ世間ノ治亂ニ關係セス無為ヲ以テ却テ自國ノ王位ヲ固クスルヲ得タリ一千百八年第六世ロイス位ニ即キ祖先以來未曾有ノ智勇ヲ抱キ大貴族ノ權ヲ制シタリ益シ此時ニ至テハ民庶ノ衣食漸ク足リテ禮讓次第ニ興リ又舊時ノ奴隸タ

ルヲ甘ンセス不羈自由ノ趣意ヲ達セシガ爲國王ヲ助テ貴族ヲ滅シタルナリ一千百八十年ヒリップオーダースチュア位ニ即キ又封建ノ貴族ヲ滅シ其他佛蘭西ニアル英領ノ地ノルマンヂ等ハノ本領ナリヲ没入シテ大ニ王土ヲ開キ其境界前代ニ比スレハ殆ント一陪セリ千二百十四年國內ノ一貴族フランドルスノ君兵ヲ舉テ英國王ジョン及ヒ日耳曼帝オトート連合シテ佛蘭西ヲ攻メ之ニ克メス佛王ハ僅カニ小兵ヲ以テ敵ヲ破リ日耳曼帝ヲ逐ヒフランドルスノ君ヲ捕ヘボウーンスノ一戰ヲ以テ事ヲ決シタ

リコレヨリ佛蘭西ノ威名歐羅巴全州ニ轟キコレ
ヲ恐レザルモノナシ爾後コノ餘業ヲ繼キシモノ
ハ第九世ロイスナリ此君ノ在位ハ千二百二十六
年ヨリ始リ千二百七十年ニ終レリロイス即位ノ
後ハ祖宗ヨリ遺傳ノ法ニ從テ專ラ王威興張ノ策
ニ眼ヲ着セリ從來佛蘭西ニテハ無位ノ平民ヲバ
第三等ノ民種トシテ輕蔑スルノ風習ナリシカ氏
漸ク之ヲ揚ケテ直ニ王室ノ制御ニ服セシメ羅馬
ノ舊法ヲ採用シ議事院ノ制度ヲ正タシ裁判刑法
ノ大局ヲ立テ、次第ニ貴族ノ權柄ヲ奪ヒ王威ノ

行ハル、^ノ昔時ニ百陪セリ下民ニ不平ヲ訴ル者
アレハ速ニ處置シテ其弊害ヲ除キ貴族ニ暴威ヲ
逞フスル者アレハ嚴ニ之ヲ罰シテ後患ヲ防キ天
下一夫モ其處ヲ得ザルモノナクシテ盡ク皆王ノ
仁德ヲ仰キ其智勇ヲ感シテ之ヲ貴ハサル者ナシ
之ヲ慕ハザル者ナシ後世ノ諸王事ヲ爲ス可キオ
徳ニ乏シト雖ニヨク王室ノ全權ヲ固守シテ之ヲ
失ハザリシハ他ナシ皆先王ノ餘慶ナリ後世王室
ノ力ニ依頼セザルヲナシ古來佛蘭西ノ國議ニ關

係スル者ハ唯貴族僧徒ノミナリシガ第四世ヒリ
ノ時ニ至テ議事院ニ平民ノ出席ヲ許シ王室ヲ
仰ク者益多ク重大ノ事件ニ遇フ毎ニ王威ノ行ハ
レサルトナシ千三百二年羅馬法王第八世ボニス
トス佛蘭西王ヲ凌辱シラ之ヲ臣服セシメントシ
タレニ佛王敢テ屈セスヨク其國威ヲ持張セシノ
ミナラス却テ法王ヲ窘メタルモ皆平民會議ノ力
ナリ〇千三百二十八年第4世チャレス死シテ子
ナシワロイス侯ノ子ヲ迎立ツ之ヲ第六世ヒリップ
トス蓋シ王室ノ遠孫ナリ初メチャレスノ妹イサ

ベテ英國王第二世エドワルトニ嫁シテ男子第三
世エドワルトヲ生メリチャーレスノ死ニ及ヒ英國
王外甥ノ縁ヲ以テ佛王ノ位ヲ繼キ全國ヲ英ニ并
セントノ說ヲ發シテ遂ニ兵端ヲ開キ干戈久シク
シテ止マズ之ヲ百年ノ師ト名ツク千三百四十年
英ノ軍艦スロイスニ於テ佛船ヲ殄シ千三百四十
六年ニハ英國王エドワルトニ萬四千ノ兵ヲ卒テ
侵入シ佛蘭西王ヒリップ精兵十萬ヲ以テ之ヲクレ
シノ原ニ迎ヘ佛軍利アラズ英ノ強弩ニ窘メテレ
死傷甚タ多シ一日ノ戰争ニ佛ノ歩兵三萬人武士

一萬二千人ヲ失ヒシト云フコレヨリ佛蘭西ノ勢復タ振ハス後十年ヲ經テ千三百五十六年英ノ太子アーチキ・プリンス僅ニ八千ノ兵士ヲ以テ佛蘭西オランダに入リ佛王ジヨントボイチルスニ戰テ復タ之ヲ破リ王ヲ禽ニシテ英ニ歸レリ是ニ於テカ佛蘭西ノ形勢四分五裂外國ヨリ雇ヒシ兵士ベ國內ヲ奪掠シテ憚ル所ナク農商ハ貴族ノ苛政ニ苦テ諸方蜂起シ政府ノ危急且夕ニ迫レリ一千三百六十四年第二世ジョン英國ニ死シ太子位ニ即ク之ヲ第五世チャーレストスチャーレス在位ノ間ニ英國王第三

世エドワルト死シテ國內治ラスチャーレス此機ニ乘シ大臣ヂュゲスクリント共ニ謀テ英人ヲ逐ヒ舊地ノ大半ヲ恢復シタレキ千三百八十年チャーレス世ヲ辭シゲスクリンモ亦死シテ國亂復タ生ス太子第六世チャーレス位ニ即キタレキ精神錯亂シテ國事ヲ裁スルヲ能ハズ王族ノ大諸侯オルリ!シスノ君トブルゴンヂーノ君ト權ヲ争ヒ黨類相分レ或ハ戰争シ或ハ暗殺シ事物ノ混亂前日ニ一陪シテ國力大ニ衰ヘ遂ニ復タ英人ノ入寇ヲ招キ千四百十五年英佛ノ大兵アジンコーントニ戰テ佛

軍敗走千四百十九年「ブルゴンデー」ノ君

ジョン・ゼ・ズ

「ルース」ナル者「オルリーンス」ノ君ニ欺カレテ殺

害ニ遇ヒシニ由リ其子「リップブルゴンデー」ノ地
 ノ以テ英國ニ降レリコレヨリ先キ王妃イサベラ
 頗ル姦才ヲ抱キ既ニ君夫ノ權ヲ奪ヒ又其所生ノ
 太子ヲ廢セントシ是ニ於テブルゴンデー與シ
 テ英佛ノ和約ヲ結ヒ公主「カメリナ」ヲ英國王第五
 世「スリニ嫁シテ「スリ」ヲ佛蘭西王ノ嗣子ト定
 メ且佛王在世ノ間ハ暫ク「スリ」ニ執權ノ職ヲ任
 セリ其實ハ全國ヲ舉テ敵ニ興ヘタル「ナレ王」

ノ癲狂嘗テ其事情ヲ知ラス伎令ヒコレヲ知ルモ
 コレヲ拒ム可キ權ナシ數月ニシテ王ハ病ヲ以テ
 死セリ此一舉ニ由テ佛蘭西ノ國ハ全ク滅亡ニ屬
 シ王室寺院貴族民族一トシテ瓦解セサル者ナク
 太子ハ唯オルリーンスノ孤城ヲ守リ危急旦夕ニ
 迫テ盡ク皆恢復ノ望ヲ絶チシガコヽニ一女子ア
 リ「ジョンダルクト云フ年甫テ十八自カラ天使ト
 稱シ佛蘭西恢復ノ命ヲ天ニ受ケシトテ報國盡忠
 ノ大義ヲ唱ヘ遂ニ「オルリーンス」ノ圍ヲ破リ太子
 ノ奉シテレイミスニ至リ即位ノ禮ヲ行ヘリコレ

ヲ第六世チャーレストス干時千四百二十九年ナリ
爾後女將ノ勇義ヲ以テ漸ク諸城ヲ恢復シタレ正
コムペン城ノ急ヲ援ケシキ城將一婦人ト功名ヲ
與ニスルヲ耻チジョアンダルタヲ欺テ敵軍ノ中ニ
陷レ英人捕ヘテ之ヲ燒殺シタリ○英佛ノ兵ヲ構
スルト年既ニ久シ双方唯其國力ヲ疲弊セシハル
ノミナリシガ後ブルゴンヂノ君佛蘭西王ト和
議ヲ結テヨリ佛人ノ勢俄ニ面目ヲ改メ千四百三
十五年パリスノ人民城門ヲ開テ國王ヲ迎ヘコレ
ヨリ國內ノ諸都皆首府ノ例ニ倣テ降伏スルモノノ

益多ク數年ニシテ盡ク舊土ヲ恢復シカレイノ一
都府ヲ除クノ外ハ佛ノ國內ニ英人ノ跡ナシ○百
年ノ干戈始テ止ニ人口俄ニ繁殖シテ百工次第ニ
榮ヘ人民恒ノ産ニ就テ又往時ノ艱苦ヲ知ラス王
室ハ宗祖遺傳ノ策ヲ誤ラスシテ次弟ニ封建世禄
ノ權ヲ制シ第十一世ロイスニ至テ王威益盛強ヲ
致セリロイスノ爲人狡猾ニシテ偽計ニ富メリ多
方ニ策略ヲ運ラシテ貴族ヲ殺シ千四百七十七年
ニハブルゴンヂノ君チャーレス・ゼ・バルトヲ欺テ
死ニ陷レ其領地ノ大半ヲ割テ王室ニ併セリ蓋シ

ブルゴンデーハ佛蘭西ノ一大諸侯ニシテ數百年ノ間跋扈セシモノナリ其他アレジューメーンプロウエンス等ノ地ヲ取テ南ノ方地中海ニ至ルマテ盡ク王土ニ屬シ又西北ノ地方ハブリタニ一侯ノ領地ニテ多年獨立ノ勢ヲ成セシガ第八世チャーレスブリタニ一ノ公主アンナヲ娶テ其領地全ク王室ノ版圖ニ歸シタリ此時代ニ至テ火器ノ用法世ニ弘マリ弓馬ノ道次弟ニ廢棄シテ封建世禄ノ貴族等又昔日ノ顏色ナシ從来世禄ノ家ニ生レシ武士ハ假令ヒ薄禄寒貧ト雖氏軍役ノ重キヲ以テ大ニ

權威ヲ振ヒシカニ當時ノ勢ヲ以テ之ヲ見レハ其功用、錢ヲ興テ雇ヒシ歩兵ニミ若カズコレヨリ封建ノ制度俄ニ破レ英國ニ於テハ國ノ權柄下ニ歸シテ自由寛大ノ政体ヲ立テ佛蘭西ニテハ其權威上ニ集リ一君親裁ノ政府ヲ固クシタリ○第八世チャーレスノ時ニ至テハ國既ニ富ミ兵既ニ強シモト一レス天稟ノ氣力ナシト雖氏其國ノ富強ヲ賴テ安ニ大志ヲ抱キ歷山王及ヒチャーレマンノ事ヲ行ハントテ千四百九十四年兵ヲ發シテ伊太里ヲ征シ子一ブルニ克ヤレバ之ニ克ツ「速ナレハ之ヲ

失フモ亦速ナリコレヨリ數年ノ間佛人ハ伊太里ノ師ニ奔走シテ財ヲ費シ生命ヲ失ヒ所得ヲ以テ所失ヲ償フニ足テス世ノ諺ニ云フ伊太里ノ國ハ佛蘭西人ノ墓所ナリト其言當レリ千四百九十八年第_八世_{チャーレス}死シテ子ナシ其再從弟オルリーン_{ース}ノ君ヲ迎テ位ニ即カシム之ヲ第十二世ロイ_{ース}トスロイ_{ース}モ亦先王ノ志ヲ繼キ伊太里ヲ取テントシタレ凡功成テス千五百十五年死シテ子ナシロイ_{ース}王ハ節儉ニシテヨク民ヲ愛シ即位ノ後舊來ノ稅額ヲ半減シ戰爭ノ爲ニ政府ノ費用

多カリシト雖氏嘗テ國民ノ煩ヲ爲サス王常ニ云フ朕ハ吝嗇ヲ以テ朝臣ノ嘲ヲ取ルモ奢侈ヲ以テ萬民ヲ泣シムル莫ラント欲スト疾ノ病ナルニ及_シテワロイ_{ース}ノ君ヲ召テ嗣子ニ定メ其手ヲ執テ云ク朕今死ス此遺民ヲ以テ汝ニ託スト蓋シ死ニ臨ムマテ民ヲ忘レザルナリ唯在位ノ間其失策ハ伊太里戰爭ノ一事ノミワロイ_{ース}ノ君位ニ昇リ之ヲ第一世_{フランシス}トスフランシス即位ノ初ハ頻ニ伊太里ニ克チ殆ントコレヲ押領スルノ勢アリシガ此時ニ當テ日耳曼帝第五世_{チャーレス}西班牙王ニ

日耳曼帝ニ選舉セフレ 天資英邁既ニ西班牙ノ富
兩國兼有ノ一君ナリテ 天資英邁既ニ西班牙ノ富
強ヲ有シ又日耳曼ノ帝位ニ昇リ威名赫々トシテ
歐羅巴ノ諸邦ヲ轟シ佛蘭西王ノ伊太里ニ克ツア
見テ之ヲ悅ハス兵ヲ發シテ佛ヲ改メ遂ニ二大國
ノ争端ヲ開キ佛王慄惧ニシテ善ク戰フト雖曰左
レースノ沈勇ニ敵スルト能ハス千五百二十五年
パウヤノ一戰ニ敗シ俘ト爲リテマドリット西班牙ノ首府
ニ送テレタリ佛人ハ其君ヲ失ヘビ其國躰ヲ失ハ
ズ力ヲ併セテ敵ヲ防キ遂ニ辱ヲ受ルコナシアラ
ンシス禁錮ヲ免カレテ國ニ歸リシ後モ敢テ其節

ヲ變セス日耳曼帝家ノ權ヲ殺カントンシテ專ラ其
策ヲ運ラシ傳テ第二世ヘヌリノ世ニ至テモ佛蘭
西ノ國論ハ日耳曼ニ敵スルノ趣意ニテ兵ヲ用ル
コ三十年遂ニ佛蘭西ノ獨立ヲ固クセシノミナフ
ス他ノ歐羅巴諸國モ佛ノ力ニ依頼シテ安全ヲ保
ツモノ多シ此時ニ當テ佛蘭西ノ風俗漸ク盛美ヲ
致シ王公富豪皆文學ノ貴ヲ知テ其教ヲ助成シ諸
家文人陸續輩出シテ佛語ノ美ヲ盡シ圖画彫刻土
木ノ學一樣ニ進歩セザルモノナシ千五百年代ノ
初ヨリ五十年ノ間ハ佛蘭西ノ歴史ニ於テ文明ノ

時代ト稱ス可シ治極テ亂又生ス千五百年代ノ典ヨリ宗旨改革ノ爭論ヲ以テ遂ニ干戈ヲ邦内ニ動カシ五十年ノ日月ハ復タ晦冥ノ亂世ニ陷リタリ初メ第一世フランシス在世ノ頃ヨリ宗旨改革ノ議論漸ク佛蘭西ニ行ハレ就中教師カルウインナル者其說ヲ首唱シ同志ノ徒甚タ多シ之ヲヒュゴタントノ黨ト云フ其初メ新教ニ歸依スル者ハ唯貴族大家ノミナリシガ次第ニ全國ニ流行シテ無學下流ノ小民ヲ除クノ外ハ國中大半ノ人皆プロテスタント即チ新教ナリ小民ノ歸依スル宗旨ハ天主教ナリ今日ニ至ヘマテ佛蘭西ノ人ハ天主

教者ヲ奉スニ改宗スルノ蘭アリ第一世フランシス第二世ヘヌリ新教ノ流行ヲ止メントシ禁制ノ令ヲ下タシタレハ人情ノ趣ク所如何トモス可ラス禁令ヲ下タシテ却テ其流行ヲ促シ新教ニ移ル者日ニ多ク其勢次第ニ盛大ヲ致シテ唯自由ニ宗旨ヲ奉信スルノミナラズ甚タシキハ政治ノ權ヲモ宗旨ノ内ニ籠絡セントスルノ勢ヲ成シ恰モ國內別ニ共立ノ一政府ヲ設タルガ如シ當時佛蘭西ノ如キ一君親裁ノ國ニ於テハ此新宗ノ勢ヲ見テ政府ノ安ヤザルハ固ヨリ論ヲ俟タズ廟堂ノ人或ハ

變通ノ策ヲ獻シ之ヲ鎮撫セントセシモアレ
鎮撫ノ策ハ固ヨリ永久ス可キニ非サレバ事遂ニ
成ラス乃チ其策ヲ改メ王室ハ天主教ヲ助ルトノ
議ニ決セリコレヨリ天主教ト新教ト黨類相分レ
各其首魁ヲ奉シ議論日ニ沸騰千五百六十年第ニ
世フランシスノ時ニ始テ兵端ヲ開キ千五百九十
八年ニ至テ漸ク平定ニ歸シタリ第九世チャーレス
及ヒ第三世ヘスリノ在位ハ二代ヲ合シテ僅ニ二
十八年ニ過キス此間ニ双方ノ黨類兵ヲ交ルトハ
度財ヲ費シ命ヲ落スゝ舉テ計ル可ラス新教ノ首

魁ニテ最モ有名ナル者ハ水師提督コリグニ是ナ
リ天主教ノ黨ハ「デューク・オ・ガイス」ヲ以テ巨魁ト
為シ双方互ニ其說ヲ固執シテ解ケス千五百七十二
年第九世チャーレス在位ノ時天主教ノ諸長竊ニ
會同シ新教ノ黨類ヲ盡ク殺戮シテ葛藤ノ根ヲ絶
タルトノ議ヲ決シ第八月二十四日「パリス」ノ府内
ニ於テ不意ニ兵ヲ發シ先ツ水師提督ノ家ニ入テ
之ヲ殺シ其他新教ニ關係セルモノハ事跡分明ナ
ラスト雖凡貴賤老幼ヲ問ハスシテ屠戮ヲ加ヘ白
髮ノ病老鮮血ニ染ミ初生ノ赤子母ト共ニ斃レ屍

骸山ヲ成シ流血杵ヲ漂ハシ其慘酷名状スルニ堪
ヘス八日ノ間ニ五千人ヲ殺シダリト云フ後世コ
レヲ「バルゾロミュ」ノ屠戮ト名ツク蓋シ第八月二
十四日ハ「バルゾロミュ」ノ祭日ナルヲ以テ此名ヲ
下タシタルナリ此殺戮ヲ行フト雖ニ新教ノ入ハ
尚其節ヲ執テ動カス下テ千五百八十九年第三世
ヘメリ刺客ノ爲ニ殺サレテ子ナシ遺命シテ其女
塔ナレナワレノ君ニ王位ヲ傳ヘリ之ヲ第四世ヘ
スリトス蓋シナワレノ君ハ其姓ヲ「ボルボン」ト稱
シ第九世ロイスノ後胤ナリ故ニ第四世ヘメリヨ

リ以下ノ歴代ヲ「ボルボン」ノ血統ト云フヘメリハ
素新教ニユ一ゴノシトノ黨ニ與ミシ其首魁ノ名ヲ得
シ人ナレハ天主教ノ黨ハ之ニ服セス唯其天資剛
勇ニシテ恩仁厚キ故ヲ以テ漸ク人心ヲ得タリト
雖ニ結局天主教ニ非サレハ全國ノ人心ヲ籠絡シ
難キヲ知リ乃チ自カラ改宗レテ天主教ニ歸シ又
新令ヲ下タシテ國內ニ「プロテスタン」ノ宗旨ヲ
許シ此新教ヲ奉スル者ト雖ニ公私ノ職業ニ就カ
ルコナシトノ趣ヲ布告シタリコレヨリ双方ノ宗

徒各其處ヲ得テ數十年ノ爭論始テ平定セリ此新
令ヲ「ナント」ノ令ト稱ス○ヘヌリハ大亂ノ後ヲ承
テ位ニ即キ既ニ宗旨ノ爭論ヲ和シ又隨テ國ノ富
強ヲ恢復セント欲シ股肱ノ宰相ニリト共ニ謀
テ百官ヲ整ヘ刑法ヲ正タシ稅ヲ減シ國用ヲ節シ
農ヲ勸メ工ヲ勵マシ文學ヲ脩メ藝術ヲ導キ始テ
政府ノ躉裁ヲ成シ風俗次第ニ敦ク衣食日ニ饒ナ
ルヲ得タリ乃チ又先王第一世「フランシス」ノ志ヲ
繼テ日耳曼帝ノ權ヲ制セントスルノ事ヲ企テ四
萬ノ兵ヲ集メ親ヲ將トシテ將サニ發セントスル

ニ當リ刺客ノ爲ニ弑セラレテ遂ニ事ヲ果サズ于
時十六百十年ナリ太子繼テ立ツ之ヲ第十三世「
イストス」年甫テ九歳太后政ヲ聽キ先王ノ遺臣ヲ
退ケテ嬖人「コンシニ」ヲ用ヒ朝政復タ亂タルロイ
ス年長スルニ及ヒ母氏ノ舉動ヲ見テ竊ニ之ヲ悅
ハス千六百十九年嬖人「コンシニ」ノ黨ヲ捕テ之ヲ
誅シ太后ハ出奔シテブロイスクニ幽居セリコレヨ
リ母子ノ間益善ラス太后密ニ近臣ト謀リ兵力ヲ
以テ昔日ノ權ヲ復セントシ之ヲ試ルニ二度ニ及
ヒタレハ事遂ニ成テ斯黨與相分レ物論日ニ喋々

タリシガ幸ニシテ名臣リセリウノ力ニ頼リ母子
ノ離ヲ慰解シテ漸ク國勢ヲ輓回スルヲ得タリリ
セリウハ元貴族ノ子ナリ弱冠ニシテ法教ノ門ニ
入リ既ニ英名アリ後政府ニ仕ヘ太后ノ信用ヲ得
テ漸ク進ミ千六百二十四年宰相ノ位ニ昇レリロ
イス王モ亦天資暗弱ニシテ國事ニ堪ヘズ専テ宰
相ニ委任シテ内外ノ事務一切萬機ワセリウノ裁
斷ヲ仰カザルモノナシ其在職ノ間ニ施行シタル
政治策略ノ目的ヲ見ルニ之ヲ三箇条ニ分ツ可シ
即チ第十一世ロイスノ遺業ヲ繼キ封建世禄ノ餘

風ヲ除テ貴族ヲ廢倒シ國力を王室ニ集メントス
ルヲ第一ノ目的ナリ又當時プロテスタン_{新教}
ト_{ナリ}ノ宗徒再ニ盛大ヲ致シテ恰モ一政府ノ
本哉ヲ成シ王命ニ従ハサル者アルガ故ニ其勢ヲ
殺カントルスルヲ第二ノ目的ナリ又日耳曼ノ帝位
ニ昇ル者ハ_{オーストリア}地利ノ家ニ限リ其權威漸ク増大シ
テ諸邦ヲ并呑セントスルノ勢アレハ其勢ヲ制シ
テ佛蘭西ノ國威ヲ耀カサントルスルヲ第三ノ目的
ナリ以上三箇条ノ目的一トシテ其策ヲ誤テス法
律ヲ嚴ニシテ貴族ヲ制シ法ヲ犯ス者ハ必ス刑罰

ヲ加ヘテ其家ヲ没入シ王室ノ親族ト雖ニ嘗テ罪
ヲ假サズ封建世禄ノ舊弊是ニ於テカ始テ一掃セ
リ一千六百二十六年新教ノ宗徒ヲ攻メ其巢穴ヲ覆
サンカ為ロセハレノ城ヲ圍テ遂ニコレヲ降タシ
コレヨリ國內ニ新教ヲ主張スルモノナシ宰相ノ
威權ハ唯國內ニ行ハル、ノミナラス其着眼早ク
既ニ外國ノ事ニ及ニ機會ノ乘ス可キアレハ嘗テ
之ヲ誤ラス日耳曼ノ亂ニ投シテライン河東ノ地
ヲ取り奥地利ヲ服従セシム西班牙ヲ征シ其威名
遠ク歐羅巴諸邦ニ轟アコレヲ恐怖セザルモノナ

シ功既ニ成リ名既ニ遂ケ千六百四十二年病ヲ以
テ死ス翌年第十三世ロイスモ亦世ヲ終レリ在位
三十三年嘗テ政務ニ關ラス唯宰相ニ任シテ疑ハ
サルノミリセリウノ為人殘忍ニシテ權謀多ク且
其一身ノ行狀モ傲慢無禮見ル可キモノナシト雖
凡國歩艱難ノ時ニ當テ政府ノ大權ヲ執リ其事ヲ
行フニ至テハ規模常ニ洪大ニシテ成功美ナラザ
ルハナシ遂ニ立君獨裁ノ政牀ヲ固クシ王威赫奕
ノ基ヲ開キシハ其功業亦大ナリト云フ可シ嘗テ
人ニ告テ云ク新法ヲ設ルハ舊制ヲ實地ニ施スノ

便ニ若カス國ノ惡弊ヲ除クノ要ハ言語ニ在ラス
シテ實行如何ニ在リト蓋シ宰相ノ心事ナリ魯西
亞帝第一世ペイトル佛蘭西ニ在ルニ嘗テリセリ
ウノ碑ニ謁シ歎シテ云ク嗚呼大人ナル哉君若シ
余ニ教ルニ余ガ半國ヲ治ルノ術ヲ以テセバ他ノ
一半ハ舉テコレヲ君ニ贈ラント英雄相慕フノ情
見ル可シ○第十四世ロイス位ニ即ク既年僅ニ五
歳先王ノ遺命ニ由リ太后政ヲ攝シ王ノ叔父オル
リーンスノ君コレヲ補佐セリ後又太后ノ命ヲ以
テ伊太里ノ人マザリンヲ用ヒ宰相ノ職ニ任シテ

國事ヲ托シ其威權リセリウニ異ナラス此時ニ佛
蘭西ハ日耳曼及ヒ西班牙ニ敵對シテ國事多端ナ
レ氏兵ニ將タル者ハグレート・コンディ等ノ人物
アリテ外ニ戰ヒ内ニハ宰相マザリンノ經濟ヲ以
テ財用ヲ理シ國王幼冲ナリト雖氏内外ノ侮ヲ取
ラス千六百六十二年マザリン死シテ政府ノ權柄
始テ國王ニ歸シタリロイスノ爲人父ニ異ナリ天
資豪邁ニシテ英斷アリ恒ニ自カラ謂ラク天ノ人
君ヲ生スルハ天ニ代テ事ヲ為サシメントスルノ
趣旨ナレハ必スコレニ一種ノ明徳ヲ附與スルモ

ナリト其說殆ント夢想ニ近シト雖氏之ヲ信シテ
疑ハス既ニ自尊ノ心ヲ生シ功ヲ貪テ飽カス難ニ
遭テ恐レス遂ニ一世ノ洪大ヲ致シタルナリマザ
ソニ棄世ノ即日ヨリ萬機皆王ノ親裁ニ出テ宰相
大臣ノ如キハ唯書記ノ用ニ使役シテ王命ヲ傳ヘ
シムルノミコルベルトロウオイス等ハ稍ヤ宰相ノ
權アリシ者ナレ凡王ノ籠絡ヲ脱シテ自カラ功ヲ
顯ハスヲ得バ然レバ當時佛蘭西ニテ富國利用ノ
術ヲ施シ政府ノ歲入モ饒ナルヲ得シハ實ニ宰相
コルベルトノ功ナリ衣食漸ク洽子クシテ智學モ

亦次第ニ進ミ文明開化期シテ待ツ可キノ勢アリ
○千六百六十七年英ト和蘭トノ間ニ事ヲ起シ佛
蘭西ハ和蘭ヲ援ケテ軍艦ヲ出シ蘭ノ海軍總督コ
イトル英ノ首府ニ入り英人敗走シテ事既ニ平ラ
ギタレ氏各國ノ政府佛蘭西ノ日ニ強盛ナルヲ見
テ自カラ安ゼス英國、和蘭、瑞典ノ三國竊ニ結約シ
テ佛蘭西王ニ迫リペニースニ盟テ各國ヘ其侵
地ヲ返サシメ大ニ佛ノ國威ヲ制シタリ佛蘭西王
ハ素ヨリ此條約ヲ悦ハス殊ニ和蘭人ノ舉動ヲ憤
ルヘ甚タシ乃チ先ツ策略ヲ施シテ英蘭ノ交ヲ絶

タシメ千六百七十二年十萬ノ兵ヲ發シ親カテ將
トシテ和蘭ニ入りカテ盡シテ之ヲ攻レハ蘭人モ
亦弱敵ニ非テス全國内一人トシテ報國ノ義ヲ忘
ル、者ナク死ヲ守テ佛ノ兵ヲ防キ陸戰ハ利アラ
ズト雖氏海上ノ戰ニハ和蘭ノ本色ヲ失ハス名將
ロイトルノ智勇ヲ以テヨク英佛ノ海軍ニ敵シ遂
ニ本國ノ名譽ヲ汚ストナシ當時歐羅巴諸邦ノ政
府和蘭ヲ救フノ情ニ切ナラスト雖氏佛蘭西王ノ
威勢ヲ見テ唇亡齒寒ノ患ヲ恐レ日耳曼、塘國、西班
牙、ノ三國兵ヲ出シテ和蘭ヲ援ケ英國モ亦策ヲ變
ゼンニ會同シテ各國和睦ノ條約ヲ結ヘリ此度ノ

シテ同盟ニ與シ又一場ノ大戰争トナリ此時ニ
當テ佛ノ將軍ニグレート・コンデイ及ヒチューレン
アリ日耳曼ノ將軍ニモンテシクアリ和蘭ノ將軍
ハ則チ第三世井ルレハナリ天下有名ノ四大將各
其智略ヲ振ニ或ハ勝チ或ハ敗シ戰争ノ闇ナルニ
至テハ唯用兵ノ巧拙ヲ競ニ妄ニ人ヲ殺シテ戰ノ
本意ヲ忘ル、ト多シ數年ノ間ニ各國ノ力全ク疲
弊シテ皆兵革ニ憊ムノ色アリ乃チ英國王ノ周旋
ヲ以テ和議漸ク成リ千六百七十五年和蘭ノニム
ゼンニ會同シテ各國和睦ノ條約ヲ結ヘリ此度ノ

戦争ハ元ト和蘭ヨリ起リシトナレバ和議成ルニ及
テ和蘭ハ嘗テ其舊物ヲ失ハス地ヲ割キ國威ヲ落
トシタル者ハ却テ西班牙ト瑞典トノミ佛蘭西王
ハ和議ノキ既ニ其盟主ト為リ王ノ意ヲ以テ條約
ノ箇條ヲ定メ土地ヲ得ルト少ナカニス意氣揚々
トシテ又天下ニ敵ナキガ如シ和蘭合衆政治ノ大
統領井ルレム即ナ第三世井ルレムナリノ如キハ
當時和蘭ハ合衆政治ナリ佛人ノ竊ニ輕蔑セル所ナリシガ豈計井ルレムノ
謀ヲ以テ再ヒ各國ヲ連合シテ佛ノ跋扈ヲ制セん
カ爲オウグスボルフニ會盟セリ連合ノ國ハ奥地

利和蘭瑞典サウライノ一國是ナリ佛蘭西王コレヲ
聞キ敵ニ先テ事ヲ發シ皇太子ヲシテ十萬人ニ將
トシテ日耳曼ニ入ラシメヒリップスボルフメンツ
スハイルス等ノ諸府ヲ攻テ立トコロニ之ヲ灰燼
ト爲シ佛兵ノ鋒ニ當ルモノナシ事未タ平ラガス
千六百八十八年遇英國ニ亂ヲ生シ國人英王第二
世ゼームスノ惡政ヲ憤テ之ヲ逐ヒ王ノ女婿和蘭
ノヰルレムヲ迎テ王位ニ奉セリコレヨリ第三世
ヰルレムハ英吉利ノ王位ニ居テ和蘭ノ政ヲ兼テ
兩國一君ノ勢ヲ以テ佛蘭西ノ好敵手ト爲リ第

二世ゼームスハ佛蘭西ニ出奔シ佛王コレヲ扶ケ
テ英ニ入レンスレバ克タズ此時ニ至テ歐羅巴ノ
本州他ニ本州ト云フニ於テハ戰爭方ニ闘ナリ佛
ノ陸軍常ニ利ヲ得テ井ルレムモ亦敗走スルニ至
レハ「ケーパラヘーグ」ノ近海ニ於テ英蘭ノ軍艦佛
蘭西ノ艦隊ヲ殲シテヨリ佛ノ海軍復々振ハス干
戈年既ニ久シク各國ノ政府敢テ和ヲ講スルノ意
ナシト雖氏事實其國力ヲ竭シテ窘迫ノ餘リニ一
時ノ無事ヲ企望シ乃チ和蘭ノベースキニ會シ
テ和議ヲ結ヒ佛蘭西ヲシテ盡ク其侵地ヲ返サン

メリ實ニ千六百九十七年ナリ佛蘭西ノ國民ハ此
條約ヲ悅ハスト雖「ロイ」スノ深意ハ機ニ乘シテ
暫時ノ太平ヲ買ヒ他ニ一事ヲ企テント欲スルニ
在リ蓋シ其一事トハ西班牙ノ王位相續ノ議論即
是ナリ西班牙王第二世チャーレス老シテ子ナシ歐
羅巴ノ人皆其將來ノ相續ニ耳目ヲ着ケザル者十
シチャーレスノ骨肉ヲ尋ルニ其最モ近親ナル者ハ
佛蘭西王第十四世ロイス及ヒ日耳曼帝レオポル
ト是ナリ佛、日、兩君密ニ謀リ西班牙王ノ死後ニ
ハ其國ヲ二分レテ兩君ノ子ニ與フ可シトノ事ヲ

約セリ西班牙王此密謀ヲ探得テ大ニ憤リ故サラニバワリヤノ君ヲ迎テ嗣子ニ定メタニ此君早ク死シ爾後王モ亦前日ノ憤ヲ忘レ佛蘭西王ノ孫アンジューノ君ヲ選テ西班牙ノ國位ヲ傳ヘリコレヲ第五世ニリップトス日耳曼帝ハ全ク其策ヲ失シテ得ル所ナケレハ佛ニ對シテ怨ヲ結フト雖ニ未タ各國ノ應接ヲ得ス此時ニ當テ前キノ英國王第二世ゼ一ムス國ヲ逐シ者ハ佛蘭西ニ死シ佛王復タゼームスノ子ヲ助ケテ英ニ入レントスルノ謀アリ英人コレヲ聞テ大ニ悦ハス元來英ノ政府ハ西班

牙ノ事ニ關テスト雖ニ佛蘭西王ノ處置ヲ怒テ乃チ兵ヲ發シ英蘭兩國ノ力ヲ合シテ日耳曼ノ應援ヲ為セリ當時日耳曼ノ軍ヲ師ル者ハブリンス・エウゼン英蘭兩國ノ兵ヲ指揮スル者ハ英國ノ將軍マルボロウ全權ヲ以テ号令ヲ施シ進退意ノ如クナラザルハナシ及テ佛蘭西ノ朝廷ニ於テハ第十四世ロイ入其夫人メンテノンニ惑溺シテ内臣事ヲ用ヒ將帥ニ任スルヲ固カラザルカ故ニ兵ニ將タル者ハ閔外ノ權ヲ專ニスルヲ能ハス動キスレハ機會ニ後レテ利ヲ失フト多シ千七百四年佛蘭

西ノ將軍タルド及ヒマルデン六萬ノ兵ヲ以テ
 バワリヤノ君ニ從ヒ日、英蘭ノ合兵六萬人トホク
 ステットニ戰テ佛軍利アラズ同年ジブルタルノ
 要地西班牙ノ南方地中海ノ咽喉ナリモ英人ニ奪ハレタリ伊太里
 ノ地方ニ於テハ佛軍稍勢ヲ得テ一時、日耳曼ノ兵
 ニ克テチューリンノ圍タレ氏日ノ將軍エウゼンコ
 レニ赴キ忽チ其圍ヲ破テ佛ノ兵威復々振ハス佛
 蘭西ノ國內ニ於テハ王室ノ子弟頗リニ病死シテ
 既ニ王ノ氣膳ヲ落シ又之ニ加フルニ饑饉ヲ以テ
 シ災禍並到リ事情止ヲ得ヌシテ遂ニ和ヲ求ルノ

談判ニ及ヒ同盟ノ各國モ初メハ佛ノ請求ヲ拒ミ
 タレ氏日耳曼帝ノ死スルニ會シ英ノ政府先ツ其
 策ヲ變シテ和議ヲ講シ和蘭日耳曼モ其例ニ倣テ
 双方和親ノ條約ヲ結ヘリコレユトレフトノ都蘭
 府ノ會議ト稱ス干時千七百十二年ナリ西班牙ノ
 相續ニ由リ各國ノ兵ヲ動カシテヨリユトレフト
 ノ和議ニ至ルマテ十二年ノ久シキニ亘リ佛蘭西
 ノ兵利ヲ失フ多カリシト雖ニ未タ其國ノ面目
 ヲ穢サス西班牙王ノ位ハ遂ニ「ボルボン」ノ家佛蘭西王
 家ニ歸シタリ○千七百十五年第十四世ロイス

死ス歿セ十七在位七十二年太子早ク死シ此他王室ノ親族モ死亡多クシテ位ヲ嗣ク可キ者ナシ乃チ王ノ曾孫「ブルゴンデ」ノ君ヲ迎立ツ之ヲ第十五世「ロイス」トス年甫テ五歳先王ノ姪「オルリーン」スノ君ヒリップ後見職ニ任シテ政ヲ攝ス第十四世ロイスノ時ヨリ連年ノ戦争ヲ以テ全國中ノ貧困ヲ致シ第十五世「ロイス」ノ初年ニ至リコレヲ救シトシテ却テ又一層ノ疲弊ヲ極メリ蘇格蘭ノ人々ウナル者智慧アリテ理財ニ巧ナリ本國ヲ亡命シ佛蘭西ニ來テ後見職ヒリップニ謁シ紙幣ヲ以テ國

債ヲ償フノ策ヲ獻シテ大ニヒリップノ信任ヲ蒙リ乃チ其策ヲ施シ又政府ノ權ヲ以テ商人ノ會社ヲ結ヒ北亞米利加ニ在ル佛蘭西領ノ地ト貿易ヲ開キ一時其壟斷ヲ私シテ利ヲ得ルト多シ國中ノ人其利潤ノ大ナルヲ見テ俄ニ貪欲ノ心ヲ生シ争テ商社ノ手形ヲ買ヒ隨テ手形ノ價ハ騰貴スレバ之ヲ買フ者益多シ商社ハ機ニ乘シテ妄ニ手形ヲ出タニ國人或ハ產ヲ空シテ唯此手形ノミヲ貯ル者アリ是ガ為國ノ金銀ハ次第ニ減少シテ手形ハ次第ニ増シ遂ニ又手形ノ價下落スルニ至リ一旦

下落ノ崩アレハ其勢止ム可テス商社ニ行テ引替
 ヲ求レバ商社ハ固ヨリ之ヲ替ベキ術ナケレバ手
 形ノ通用忍チ止マリ名ハ千萬ノ財ヲ有スルモ其
 實ハ一片ノ故紙ヲ抱ケルカ如クシテ産ヲ破リ衣
 食ヲ失フ者舉テ計フ可テスロウハ國民ノ憤怒ヲ
 恐レテ竊ニ佛蘭西ヲ出奔セリ初メロウノ佛ニ來
 リシキハ嘗テ博奕ニ耽ナシ所ノ金五十萬ドルヲ
 ルヲ所持シ其後商社ノ全權ヲ以テ巨萬ノ富ヲ致
 タレ氏出奔ノ代ハ僅カニ其生命ヲ全フシテ身ニ
 携ヘシモノハ八百金ノミナリシト云フ○ユトレ

フトノ和睦ヨリ以来數年ノ間天下無事ノ日ニ屬
 シタリシガ西班牙ノ謀臣アルベロニナル者アリ
 安ニ大事ヲ企テ英吉利ン王ヲ廢シテ其舊君セゼ第ニ
 ハノ子ヲ立テ日耳曼ニ叛テ西班牙ノ舊地ヲ恢
 復シ西班牙ノ王ヲ以テ佛蘭西王ノ後見職ト定メ
 テ遂ニ西、佛、ノ兩國ヲ併セントスルノ策ヲ運テレ
 事未タ發セズシテ密謀先ツ露顯シ英、佛、日耳曼兵
 ヲ合シテ其罪ヲ問ニ西班牙王コレニ敵スルト能
 ハス乃チアルベロニヲ放逐シテ罪ヲ謝シ事速
 平定セリ○キ七百三十四年ボーランドノ王オー

グスナエス死ス國人共ニ議シテスタニスロースキ先
ニ出奔シタルボリヲ迎テ之ヲ立ツ日耳曼帝ハオ

レンドノ王ナリオダスナエスニ左祖シテ魯西亞ニ謀リ兵ヲ發シテ
又スマニスロースヲ遂ヒオーダスナエスノ子ヲ立
テリ佛蘭西王ハ外戚ノ故ヲ以テスマニスロース
ヲ助ケ遂ニ又佛蘭西ト日耳曼トノ師ヲ起シタレ
氏佛ノ宰相フローリ戦ヲ好マズ日耳曼帝モ亦老
シテ唯一女子アルヲ以テ男子ニ位ヲ傳ヘノ舊法
ヲ改メントスルノ欲アリ乃チ和議ヲ結テ佛蘭西
ハ侵地ヲ有シ日耳曼帝ハ位ヲ女子ニ傳フ可シト
シタレ此日耳曼ノ將軍プリンス・エウゼン獨リコ
レヲ悅ハスシテ云ク約束ヲ踐マント欲セハ萬巻
ノ條約書ヲ以テ之ヲ固クスルヨリ一百ノ兵ヲ以
テ之ヲ守ルニ若カスト其言果シテ然リ干七百四
十年日耳曼帝死シテ其女子マリヤ・トレサ位ニ即
キ一杯ノ土未タ乾カズ四國ノ君王早ク既ニ帝位
ヲ窺ヒボーランドバワリヤ西班牙サルヂニノ
君各其口實ヲ設テ互ニ相争フノ勢アレ凡干戈未
テ動カザリシガ先ツ戰爭ノ端ヲ聞キシ者ハ普魯

ノ事ヲ約定セリ此條約ニハ各國ノ政府モ皆調印
シタレ此日耳曼ノ將軍プリンス・エウゼン獨リコ
レヲ悅ハスシテ云ク約束ヲ踐マント欲セハ萬巻
ノ條約書ヲ以テ之ヲ固クスルヨリ一百ノ兵ヲ以
テ之ヲ守ルニ若カスト其言果シテ然リ干七百四
十年日耳曼帝死シテ其女子マリヤ・トレサ位ニ即
キ一杯ノ土未タ乾カズ四國ノ君王早ク既ニ帝位
ヲ窺ヒボーランドバワリヤ西班牙サルヂニノ
君各其口實ヲ設テ互ニ相争フノ勢アレ凡干戈未
テ動カザリシガ先ツ戰爭ノ端ヲ聞キシ者ハ普魯

士王第二世フレデリックナリ是ヨリ先キ普魯士ハ
微々タル一小國未タ嘗テ歐羅巴ノ大事ニ関ラス
四五十年以來窺ニ富強ノ策ヲ施シテキ七百四十
年第一世フレデリックノ死スル時貯蓄ノ金六百萬
ドルテル兵士七萬二千アリ第二世フレデリック不
世出ノ英才ヲ抱テ父祖ノ餘業ヲ繼キ羽翼既ニ成
テ將サニ翔ラントスルノ勢アレ氏人コレヲ知ル
者ナシ同年日耳曼帝死シテ後二月ニシテ普魯士
王第二世フレデリック三萬ノ精兵ヲ卒ニ突然トシ
テミレシヤ日耳曼帝ノ領地ノ地ニ顯ハレ始テ天下一耳

目ヲ驚カセリ普魯士王無根ノ議論ヲ主張シテ此
地方ヲ取ラントシ其口實ハ善ナラザルモ其兵備
ノ善ナルヲ以テ忽チコレニ克チ爾後天下一般ノ
騷亂ト爲レリコレヲ奥地利相續ノ師ト云フ奥地利ノ家ハ即チ日耳曼帝ノ家ナリ佛蘭西政府ハ此機會ニ投シテ日耳
曼帝家ノ權威ヲ壓倒セント欲シ乃チバワリヤノ
君ヲ奉シテ日耳曼帝ト爲シ大兵ヲ發シテ日耳曼
ニ入り戰フトシテ勝タザルハナク女帝ハ出テ、
ホンガリヤニ遁レ日耳曼ノ存亡且タニ迫ケレ氏
女帝行在所ニ於テ兵ヲ募リ遂ニ復タ佛軍ヲ破テ

バワリヤノ君ヲ逐フヲ得タリ此時ニ英國王第
 二世ジョージ舊國ノ故ヲ以テハノーウルヲ領シ第一
 世爵ニ即キ爾後英トハノーウルノ君ニシテ英國王ノ
 ハノーウルハ日耳曼同盟ノ國ナレバ英ノ政府モ
 亦日耳曼帝ノ應援ヲ爲セリ佛蘭西ハモトバワリ
 ャヲ援ルノ趣意ニテ兵ヲ發シタレ氏宰相フローリ
 リノ死後ハ戰議ヲ拒ム者ナク專ラ國力ヲ盡クシ
 テ兵ヲ用ヒ恰モ首唱ノ勢ヲ成シ英人モ亦他ヲ顧
 ミスシテ佛蘭西ニ敵シ双方戰ノ本旨ヲ忘レテ唯
 二大國ノ強弱ヲ競フニ至レリキ七百四十三年

チノゼンノ戰ニハ佛人敗走シ千七百四十五年ホ
 ンテノイニ於テハボランドノ王子サクセ佛軍
 ニ將トシテ英人ヲ破リ英ノ陸軍復タ振ハス但シ
 水戰ニ於テハ英人常ニ利アリ其後英ノ國內ニ事
 變アリテ外國ニ兵ヲ出タスヲ能ハス佛蘭西モ亦
 和議ヲ欲シテ千七百四十八年日耳曼ノアキスラ
 シヤペルニ會シテ和睦ノ條約ヲ結ヘリ抑此條約
 始末ハ實ニ笑フ可キノ甚シキモノト云フ可シ其
 戰争ヲ起シタル因縁ハ奥地利ノ地ヲ分裂シ其女
 帝ヲ廢セントスルノ趣意ナリシニ和議ヲ結フニ

至リ奥地利ハ唯シレシヤノ地ヲ普魯士ニ奪ハレシノミニテ他ニ失フモノナク女帝ハ位ニ在テ各國ノ政府モヨレヲ認シ英モ失スル所ナク佛モ得ル所ナシ唯徒ニ數年ノ間戰ヒシノミ○アキスラシャペルノ條約中ニ云ヘルトアリ他事ハ都テ戰爭以前ノ有様ニシテ之ヲ守ル可シ云ト然ルニ亞細亞及ヒ亞米利加ニアル英佛ノ所領相鄰シテ未タ其境界ヲ定メザルモノ多シ千七百四十九年ニ至リ佛蘭西ノ人北亞米利加ニ於テカナダノ境ヘ英人ノ次第ニ侵入スルヲ責メ此時合衆國ハ未独立セズカナダハタ

佛蘭西領ニシテ英領ニ鄰セリ英人ハ却テ佛人ノ英領ヲ侵スヲ責メ爭論決セザル久シ千七百五十五年英ノ政府不意ニ軍艦ヲ發シテカナダ守護ノ佛船ヲ襲ヒシニ佛蘭西王モ亦直ニ兵ヲ舉ケタリ是即チ七年ノ師ノ始ナリ所謂七年ノ師ニ於テハ佛蘭西ト奥地利ト連合セリ蓋シ此二國ハ二百年來ノ舊敵ナリ又英國ハ普魯士ト力ヲ合セリ此二國モ互ニ強盛ラ始ムト久シ友敵ノ變化斯ノ如シ其事情ノ混雜亦推テ知ル可キノミ戰爭ノ始ニ於テハ佛人頻リニ克チカナダニテハ英人ノ跋扈ヲ制シ日耳曼

於テモ英ノ將軍コンベルテンド佛蘭西ニ降テ
ハノーヴルノ地ヲ失ヒ普魯士王モ奥地利ノ將軍
ダウニ破テレタレ凡十七百五十七年ロスバ
勝敗ヲ以テ戰ノ形勢更ニ一變セリ此戰ニ於テ
ハ普魯士王其軍略ヲ逞フシ不意ニ佛、奥地利ノ陣ヲ襲
ヒ兵ヲ交ヘスシテ二大軍ヲ破リ次テ又リッサノ戰
ニテモ勝利ヲ得勢ニ乘ジテ先キニ失ニシシレ
ヤノ地ヲ恢復シ英人モ亦ハノーヴルヲ復シタリ
普魯士王ハ頻リニ戰場ニ勝ツト雖正其國力ハ日
ニ疲弊シ且魯西亞モ奥地利ニ與ミシニ帝國ノ兵

ヲ合シテ普魯士ニ臨ミ其滅亡期シテ待ツ可キノ
勢ナリシガ遇魯西亞ノ女帝エリザベス死シテ第
三世ペイトルノ即位ニ會セリ從來ペイトルハ普
魯士王ノ人物ニ心醉シ之ヲ助ケントスルニ切ナ
レハ帝ニ奥地利トノ交ヲ絶ツノミナラズ隨テ又
魯西亞全國ノ兵ヲ以テ普魯士ヲ救フ可シトノフ
ヲ約シメレモ未タ其約ヲ果タサズシテペイトル
位ヲ廢セラレ第二世カタリナソ世ニ至テハ局外
中立ヲ守レリ普魯士王ハ事變ニ遇テ氣力ヲ屈ヤ
ス七年ノ間ニ所得甚ダ多シ海外ニ於テハ英人所

トシテ勝ダザルハナシ印度地方ニテハ佛ノ領地
 チャンデナゴーレボンヂナリ等ヲ取り亞非利加ニ
 テハセ子ガル城及ヒジョージ島ヲ奪ヒ亞米利加ニ
 テハ西印度ノ諸島及ヒカナダノ地方モ盡ク英人
 ノ手ニ落チタリ西班牙ノ政府英ノ海軍ノ日ニ強
 盛ナルヲ見テコレヲ驚キ其勢ヲ制セントシテ佛
 蘭西ト條約ヲ結ヒ援兵ヲ出タシタレバ却テ得ル
 所ナク又英人ニ海外ノ所領ヲ取ラレ貿易ノ權ヲ
 奪ハレタルノミ○争亂日久シク各國ノ入太平ヲ
 企望シテ和議漸ク行ハレ千七百六十三年佛蘭西

ノ首府パリスニ於テ條約ヲ結ヘリ此戰爭ニ於テ
 利ヲ得シモノハ唯英國ト普魯士トノミ英國ニテ
 海外所領ノ地ヲ占メ世界中ノ貿易ヲ專ラニスル
 勢モ此時ニ至テ一層ノ盛大ヲ致セリ○七年ノ師
 ヲ以テ佛蘭西ハ盡ク海外ノ所領ヲ失ヒ其海軍モ
 衰微ヲ極メテ諸方ノ海ニ又一隻ノ佛船ヲ見ズ國
 内ノ風俗ニ至テハ其醜惡殆ト名狀スルニ堪ヘバ
 沈醉冒色放奢淫逸國王先ツ其例ヲ示シテ臣下コ
 レニ效ヒ政刑ハ廢弛シ國用ハ困窮シ上下交モ信
 失テ民其處ヲ安ゼズ甚シキハ病院建立ノ為ニ寄

附シタル金ヲモコニテ奪テ官吏酒食ノ資ニ用ル
ニ至ル文武ノ官職或ハ寺院ノ僧官ト雖ニ錢ヲ以
テ之ヲ賣買スレハ名ハ官職ナレバ其實ハ狠貪飽
クノノ知ラサル者ノ餌食ノミ大凡佛蘭西ノ歴史
中ニ國風ノ不善ナルハ第十五世ロイスノ末年ヲ
其最トス概シテコレヨ云ヘハ第十五世ロイスハ
無財無政無禮ノ國ヲ遺シテ其子ニ傳ヘシ者ト云
フ可シ十七百七十四年第十五世ロイス痘瘡ヲ病
テ死ス齡六十四在位五十九年其人物ノ不良ナル
ハ在世ノ事業ヲ見テ知ル可シ死スルニ至リ人民

皆コレヲ一國ノ幸トシテ其死ヲ祝セザル者ナシ
ト云フ太子早ク死シ嫡孫立ツ之ニ第十六世ロイ
ストス此君ハ幼年ノ時ヨリ祖父ノ行ヒヲ悅ハス
即位ノ年二十歳既ニ人望アリ第十五世ロイスシ
末年ニハ佛蘭西ノ政府内外ノ戰ニ敗衄シ政治廢
壞ノ極度ニ至タレバ其文學ハ嘗テ衰微セザルノ
ミナヲ益盛美ヲ致シテ諸邦ヲ廢倒シ恰モ武ニ
敗シテ文ニ勝ツノ勢アリ第十六世ロイスノ世ニ
至リ此文學ヲ以テ舊弊ヲ一新セントシタレバ如
何セン國內中人以上ノ種族放僻邪侈ノ習既ニ性

ト爲リ舊物ノ安ヲ甘シテ新法ヲ悅ハス國王ノ天
資美ナリト雖ニ果斷ノ勇ナク且又新法ヲ行ハシ
トスル者モ誠實ノ大義ヲ失シテ慘酷ニ過キ一旦
事ヲ發スルニ至テハ醉ヘルガ如ク狂スルガ如ク
事ヲ發スルヲ知テ事ヲ脩ルヲ知テス遂ニ數十年
ノ間全國ノ大亂ニ陷リタルナリ蓋シ此大亂ノ本
ヲ釀シタルハ年既ニ久シト雖ニ別ニ又其近因ア
リ千七百七十六年亞米利加ニアル英國所領ノ人
民本國ノ苛政ヲ厭フテ獨立ノ兵ヲ揚ケ自カラ亞
米利加ノ合衆國ト稱シ英人ト戰テ屢利アテス使

ヲ佛蘭西ニ遣テ援兵ヲ乞ヒシニ佛蘭西王ハ之ヲ
救フノ意ナシト雖ニ國中ノ人民及ヒ政府ノ官吏
モ常ニ英國ノ舊怨ヲ報ヒ國辱ヲ雪カントスルニ
切ナレバ此好機會ヲ空フスル能ハス遂ニ亞米利
加人ノ請求ニ應シテ千七百七十八年パリスニ於
テ亞佛兩國ノ條約ヲ結ヒ其後西班牙和蘭モ亦コ
レニ與ミシテ共ニ亞人ノ獨立ヲ助ケリ海上ノ戰
ニハ英人頻ニ勝利ヲ得テ東印度ニアル敵國ノ所
領ハ大半コレヲ奪ヒ和蘭ノ如キハ海外所轄ノ地
ヲ殆ド失ヒ盡シタレハ佛人ハ西印度ノ諸島ヲ取

リ歐羅巴ノ諸方ニ於テモ英佛西班牙ノ間互ニ勝敗アリ亞米利加ニテモ戰爭久シク決セズ獨立ノ兵漸ク強盛ノ勢ヲ得テ千七百八十一年合衆國ノ將軍ワシントン及ヒ佛蘭西ノ將軍ラ・コツティ・ア・佛兩國ノ兵ヲ以テ英ノ將軍コルンワリスト戰テ大ニ勝チ是ニ於テ英國ノ政府モ合衆國ノ獨立ヲ許シ各國和ヲ講シテ其舊ニ復シタリ佛蘭西人ハ亞米利加ノ戰爭ニ功ヲ成セシト雖氏其成功ヲ以テ却テ自國ノ騷亂ヲ促セリ此時佛蘭西ノ宰相ニ子ックルナル者アリ理財ニ長セリ戰爭ノ費冗ヲ償

ハシガ為國債ノ法ヲ以テ財ヲ集メ國債次第ニ増シ収稅ノ法ニ亦隨テ苛刻ナルヲ以テ下民ノ怨望スルハ固ヨリ論ヲ俟クバ且又金ヲ出シテ政府ニ貸シタル者ハ國債ノ廢壊セントヲ恐レテ物論日ニ喋々タリ又先キニ亞米利加ニ行キ其獨立ヲ助ケテ戰ヒシ者ハ數年ノ間亞人ニ接シテ苦樂ヲ共ニシ自カニ不羈自由ノ風ニ浸潤シテ歸國ノ後モ其氣象ヲ脱スルヲ能ハス既ニ本國ノ苛政ヲ厭ヒ顧テ一線ノ水ヲ隔テ英吉利ヲ望見レバ亞米利加ノ戰争ニ利ヲ失フト雖氏自國ノ政軀ハ嘗テ變動

セス人民皆自由ノ風化ニ俗ニ意氣揚々トシテ太
平ヲ樂ノリ佛人ハ内外ノ景況ヲ比較シ彼ヲ想ヒ
此ヲ見テ自カニ亦寛大自由ノ風ヲ慕ハザルヲ得
ス是ニ於テ當時ノ宰相ガロソニ一議ヲ發シ從來
貴族及ニ僧官ト稱シテ稅ヲ免レシ者ヘモ國中一
般ノ法ニ從テ定額ヲ出サシメントシウエルセール
ニ貴族ヲ會シテ商議數日ニ及ベトモ事遂ニ行ハ
レス民情益不平ナリ宰相ガロソニハ其說ノ行ハ
レザルマ以テ退職シズリン子之レニ代タレルニ
年ヲ經ズシテ又職ヲ辭シ乃チ復夕前ノ宰相ニツク

ルヲ召シテ歸職セシメタリ初メモックルハ貴族僧
官ノ憤ニ觸レテ位ヲ失ヒシガ故ニ再勤ノ後ハ專
ラ衆庶ノ議論ニ左袒シテ其地位ヲ固クゼント欲
シ王ニ説ニ衆庶ノ會議ヲ開ケリ實ニ千七百八十九
年ナリ第五月五日ウエルセールパリスノ西南ニ
十里ニ在ルニ於テ開議ノ始ニハ國王モ其席ニ臨ミ事情平穩ニ
シテ後患ナカル可キニ似タレ由其實ハ然テス貴
族縉紳ノ内ニモオルリーンノ君ノ如キハ其黨與
モ多ク竊ニ衆庶ヲ煽動シテ事ヲ起サシメントシ
且僧侶ノ賤シキ者モ平生僧官ノ驕敖ヲ惡テ盡ク

下流ノ人ニ與セルガ故ニ衆庶ハ益勢ヲ得テ會議ニ出席セル名代人ナル者自カテ國會アッセンブルト稱シテ獨立ノ躰裁ヲ成セリ政府ハ威ヲ以テ之ヲ畏サントシ大ニ兵士ヲ集メ且此事端ヲ開キシハ宰相子ックルノ罪ナリトテ其官職ヲ剥キシニ人心益動搖シテ穩ナラス將サニ大事ヲ發セントスルノ勢アレ此佛蘭西ノ貴族ハ從來下民ヲ輕蔑スルノ風ニ慣レ貪賤ノ者ヲ見ルト犬馬ノ如ク唯兵威ヲ以テ壓伏ス可キモノト思ヒ嘗テ儆戒ノ心ナク遇市街ニ國會ノ群集セヘルヲ見テ官兵ヲ遣リコ

レヲ擊タシメシニ事變忽チ破裂シ一都府ノ舉動恰モ一身ノ如ク項刻ノ間ニ市民變シテ兵士ト為リ自カラ護國兵ガルニドト稱シテ大小砲ヲ集メ武器ヲ携ル者三萬人老兵扶助ノ病院ニ屯セリ同年第七月四日バルチル城ヲ襲テ城將ヲ殺シ其強盛殆ト當ル可ラス此時ニ至テ佛蘭西ノ全國黨與二類ニ分レテ其分界甚タ明ナリ朝廷ニ附屬セル貴族及ニ國內ノ諸方ニ在ル封建世祿ノ餘類ハ難ヲ凌シテ其身分ノ權ヲ保タントシ中人以下ノ輩ハ一旦ノ成功ヲ得タルカ故ニ破竹ノ勢ニ乘シ

テ貴族ノ暴權ヲ一掃セントスルノミ國王ハ其中
間ニ介マリ躊躇シテ歸スル所ヲ知ラス第八月ニ
至リ二名ノ貴族ノイエー^{デガイロ}ナル者民心
ヲ鎮撫センガ為テ從來貴族ノ身分ニ附タル特權ヲ
棄テ佛蘭西國中ニ封建世祿ノ痕跡ヲ絶タントノ
說ヲ首唱シテ之ニ同意スル者多カリシト雖ニ嘗
テ其益ナク徒ニ民庶ノ侮ヲ取ルノミ國會ノ人ハ
其成功ヲ固クセントシ^{ウェルセールヨリ}國王ヲ迎
ヘテ^{パリスニ}歸リ之ヲ御スルヲ囚俘ノ如クシ新
ニ政牀ヲ設ケ王ヲ要シテ新政ニ從フ可シトノ趣

ヲ擧ハシメリ是ヨリ先キ貴族王族ノ脫走スル者
多ク邊境ニ集リ^{コンディ}ノ君ヲ奉シテ勤王ノ兵
ヲ舉ケ其勢固ヨリ徹タリト雖ニ國王ハ僅カニ
妻子ト共ニ宮内ニ居リ鬱々トシテ樂マザレハ乃
チ出奔シテ脱走ノ兵ニ歸セントア謀リシニ其密
謀發露シテ又禁錮セラレ更ニ一層ノ苦難ヲ増シ
タリ千七百九十二年^{ブロンスウヰ}君輿地利
普魯士及ニ脱走ノ兵ニ將トシテ國會ノ巢穴ヲ覆
サントスルノ新聞アリ佛人コレヲ聞テ大ニ怒リ
王宮ニ亂入シテ先ツ國王及ニ王妃王子ヲ捕ヘ政

治改革ノ説ヲ悦ハザル者ハ其罪ヲ問ハズシテ盡
ク之ヲ殺シ慘酷至ラザル所ナシ就中ジヤーユビ
ノ黨類十テダレトニ及ベロベスピーラナム者其
魁首ト為ウ最モ殺伐ヲ極メタクト云フ騷亂ノ初
ハ國會ノ議論平穩ヲ主トシ只管佛蘭西ノ舊
法ヲ改革シテ民庶ノ通義ヲ固クシ王室ノ權威ニ
分限ヲ定メテ上下一樣ニ其處ヲ得セシメントス
ルノ趣意ニテ專ラ輕舉暴動ヲ制シ殊ニラツツテ
1) アメリカヨリ歸リシ將軍前ニ出ソノ如キハ護國兵ノ長官ト爲
リテ固ヨリ民庶共議ノ大義ヲ主張スルト雖凡佛

蘭西ノ人情風俗ヲ察シ決シテ勤王ノ旨ヲ失ハス
危難ノ際ニ當テ屢々王族ノ生命ヲ救フ等ノ處置ヲ
施シ力ヲ盡シテ改革ノ成功ヲ全フセシトヲ勉メ
タレニ事變一度ヒ發シテ其勢復タ止ム可ラズジヤー
コビンノ黨與次第ニ暴威ヲ振ヒ遂ニ國王ヲ廢セ
ントスルノ議ヲ發シテ第十二月二十日國王ヲ裁
判局ニ下タシ政牀ノ趣旨ニ從フノ信ナテストテ
無根ノ罪ヲ強ヒ翌年第一月二十日法場ニ於テ斬
首セウ年三十九見ル者涙ヲ垂レサルハナシ○國
王殺害ノ後ハ共和政治ト稱シテジヤーリコビンノ黨

類事ヲ用ヒ政府ノ舉動恰モ狂スルカ如クナレバ
其狂ニ觸ル者ハ之ヲ殺シ國中ノ人皆惶恐セサ
ル者ナシ殘忍既ニ甚シク不信ノ心又隨テ生シ當
時事ヲ用ル者ノ說ニ耶蘇ノ宗旨ハ徒ニ人心ヲ惑
溺セシハルモノナレハ之ヲ廢スヘシトテ寺院ヲ
毀チ寺領ヲ沒入シ寺ノ宝器ヲ鎔カシテ錢ヲ鑄リ
其錢ヲ以テ兵士ニ與ヘ國中ニ布告シテ云ク以後
佛蘭西人ハ自由不羈ノ趣意ヲ信シ公明正大ノ理
ニ歸依シ此大義ヲ以テ天神ニ代フ可シト粗暴モ
亦甚タシ名ハ自由ナレバ其實ハ然ラズ今般ノ革

命ヲ以テ佛蘭西ノ政治ハ暴ヲ以テ暴ニ代ヘタル
ノミナラス改革ヲ望ミシ者モ自由ヲ求テ却テ殘
虐ラ蒙ルト云フ可シ○歐羅巴諸邦ノ人モ佛ノ景
況ヲ傍観スルト能ハス各國同盟シテ兵ヲ舉ケン
トシ國內ニモ政府ノ暴ヲ惡テ叛カレトル者ア
リ佛蘭西ノ政府ハ坐シテ之ヲ待メス敵ニ先テ事
ヲ起シ内外ノ血戰ニ屢利アリ爾後パリスノ人モ
漸ク「ジヤーコゼ」ノ兇惡ヲ厭ニ千七百九十四年其
黨類ヲ捕テ死刑ニ處シ是ヨリ共和政府ノ躰裁次
第ニ平穏ニ歸シ兵威ハ益盛ナリ千七百九十五年

和蘭ヲ伐チ一舉シテ全國ヲ滅シ普魯士ハ國論ヲ
變シテ局外中立ヲ守リ西班牙モ佛ニ與ミシタレ
バ同盟ノ兵ニテ佛人ト戰フ者ハ唯英吉利ト奥地
利トノミ同年佛蘭西ノ兵ハ六度ニ大戰シテ六度
ニ勝チ都城一百二十四處ヲ攻取タリト云フ但シ
海上ノ戰ニハ常ニ英人ニ勝タス千七百九十六年
佛壇ノ間暫時ノ休戰ヲ約シ大ニ兵備ヲ整ヘテ又
戰ハントス此時ニ佛蘭西共和政府ノ兵ニ將タル
者ハナボレオン・ボナルテナリ

ナボレオンハ佛蘭西ノ屬島コルンカノ人ナリ千

七百六十九年第十八月十五日アヤチヨニ生レ幼ニ
シテ奇才アリブリン子ノ兵學校ニ入り十六歳ノ
時大砲士官ノ位ヲ得タリ千七百九十四年ツーロ
ンヲ攻ル佛ノ領地ニテ政府ニ叛キシモノノリ始テ戰場ヲ試ミテ
功ヲ成シ世人皆其非凡ナルヲ知レリ其後故アリ
テ官ヲ免セテレバリスニ居ルト五年貧困極テ甚
タシト雖勇氣嘗テ衰ヘス其志ノ行ハレサルヲ
憤リ或ハ東洋諸國ニ行カンフヲ想ヒ獨リ自カラ
歎シテ曰ク亞細亞州ニハ六億ノ人口アリ世界中
事ヲ爲ス可キノ地ナリ歐州ハ既ニ傷耗シテ見ル

可キモノナシト居無何千七百九十六年佛ノ政府
 兵ヲ發シテ奥地利ト勝敗ヲ決セントスルニ當リ
 再ヒナポレオンヲ用ヒテ伊太里伊太里ノ北方奥地利ノ領地ナリ
 征伐ノ將軍ニ命シタリ干時ニ將軍ノ年二十六歳
 ナリナポレオンハ始テ大兵ヲ指揮シ直ニ南方ニ
 出テ、海岸ノ地ヨリアルペン山ヲ越ヘントシ其
 絶頂ニ至リシキハ兵士皆困耗シテ歩ヲ進ルヲ能
 ハスナポレオン怒テ云ク飢寒困耗ハ兵家ノ常事
 其苦ヲ嘗テ熟練ヲ得ヘシ何ソ之ヲ恐ル、ニ足ラ
 ン伊太里ノ地ニ至テハ衣食ノ饒ナルヲ得ヘシ功

名ノ美ナルヲ取ケ可シトテ馬ニ鞭テ山ヨリ下リ
 其勢瀑布ノ如ク忽チ奥地利トペデモニトノ合兵
 オ破リチリシ首デモニノ城下ニ迫テ之ヲ降タ
 シ伊太里南方ノ地ヲ取テ佛蘭西ニ併セリ奥地利
 帝モ禍ノ自國ニ及ハレコト恐レテ和ヲ乞ヒ佛蘭
 西ニ敵スルモハ唯英吉利ノ一國ミ佛蘭西
 海軍ハ千七百九十四年ノ戰ニ英ノ水師提督ロル
 ド・ボリウノ爲ニ破ラレ西班牙ノ軍艦モ千七百九
 十七年ノ戰ニ失ヒ盡シテ英ノ海軍ニ敵ス可キモ
 ノナシナポレオンハ既ニ瑞西ニ克チ羅馬ノ法王

ヲモ廢シ天下ニ歟ナシト雖氏唯意ノ如クナラサ
モノハ英吉利ノミナルヲ以テ乃チ工夫ヲ運ラレ
エジプト亞非利加ヲ取テ英人ノ東印度ヘ往來ス
ル者ヲ妨ケ其貿易ノ路ヲ絶テ英國富強ノ源ヲ塞
カントノ策ヲ立テ千七百九十八年水陸ノ兵ヲ裝
エジブトアブドヲ攻メ不日ニシテ其北方ノ地ヲ取り
シニ英ノ軍艦其跡ヲ追テ地中海ニ入り第八月一日
アブド港ニテ佛艦ニ逢ヒ英ノ水師提督
オルワド一夜ノ戰ニ佛ノ艦隊ヲ破リ或ハ燒キ或
ハ奪ヒ佛船ノ道ル、モノハ僅カニ二隻ノミ此ニ

隻モ次テ又英人ニ奪ハレタリ實ニ古來未曾聞ノ
大勝利ナリナボレオンハ獨リ絶域ニ居リ本國ト
應援ノ路ヲ失フト雖ニ心ニ關セス次第ニエジブ
トノ内地ニ入り又東ニ向テ小亞細亞トウガノ地
ヲ攻メ至ル處勝タザハナシ千七百九十九年ニ
至リ本國ノ政府ニ事故アヘア聞キナボレオンハ
機ニ乗シテ大事ヲ謀テントシ兵隊ノ指揮ヲ副將
ニ託シテ竊ニパリスニ歸レリ歸路地中海ニハ英
國巡邏ノ軍艦多シト雖ニコ一ヲ知ルモノナシコ
レヨリ先キ佛蘭西ノ政治漸ク舊ニ復シテ王政ノ

駄裁ヲ成シ議事官ヲ兩局ニ令テ一ヲ舊議員トシ
一ヲ五百議員ト名ツケ別ニ「デレクトルナル者ヲ
立テ、兩局ノ上ニ位シ行政ノ權ハ「チレントル」ノ
官員ニ屬セリ「ナポレオン」歸國ノ時ハ「奧地利」
イペル伊太里「一國」ト同盟シテ再ニ「佛蘭西」ニ敵シ「魯西」
亞モ亦與ニシ佛ノ形勢甚タ危シ國人皆「ナボ
レオン」ノ英名ヲ慕ヒ此人ニ依頼シテ國威ヲ興張
セントスルノ心アルヲ察シ乃チ大議ヲ發シ舊政
軀ヲ一新シテ「デレクトル」ノ官員ヲ廢シ自カ「佛
蘭西」共和政府ノ大統領ト爲リ寸兵ヲ用ヒズシテ

全國ノ權柄ヲ奪ヒコレヨリ十五年ノ間「佛蘭西」ノ
歴史ハ「ナポレオン」一人ノ傳ナリ「ナポレオン」國權
ヲ執リシ後遇「魯西」亞ト「奧地利」トノ間ニ不和ヲ生
シテ同盟ノ勢漸ク振ハス「ナポレオン」ハ此機ニ投
シ大舉シテアルペン山ヲ越ヘ「ベルナルド」ノ絶頂
シ海面ヨリ高キトハヨリ直ニ下テ敵ノ後ニ出テ「奧
軍」ハ不意ヲ襲ハレテ進退ヲ失ヒ尚力戰シタレバ
降参セリ此一戰ヲ以テ「奧地利」帝モ再ニ和睦ヲ乞
ヒ「佛」ニ敵スルモノハ又英ノ一國ト爲レリ

ナボレオン既ニ諸邦ノ兵ヲ破リ其志願ハ唯英國
ヲ厭例スルノ一事ナレ。英ノ海軍ハ子ルソシノ
勇略ヲ以テ向フ所勝タサルハナシ概シテ云ヘハ
佛蘭西ハ陸ニ敵ナク英吉利ハ海ニ敵ナシ獅子山
ニ嘯キ蛟龍水ニ蟠リ互ニ雌雄ヲ争テ互ニ近ツク
ヲ得ス双方勝敗ノ決シ難キヲ知リ始テ和睦ノ談
判ニ及ヒ千八百一年アミーンニ於テ英佛ノ和議
成レリ○英佛和睦ノ後ナボレオンハ專テ國內ノ
事務ニ心ヲ用ヒ宗旨ノ法ヲ寛ニシテ人心ヲ籠絡
シ國ノ政治ヲ次第ニ立君ノ躰裁ニ變シ大統領ノ

在職ヲ生涯ノ期限ニ定メ萬機皆統領ノ獨裁ニ出
サルセノナシ○アミーンノ條約ニ從ヘハ英人ハ
地中海ノマルタ嶋ヲ棄ツ可キ約束ナレ。貿易ノ
權ヲ失ハシコト恐テ其約ニ從ハス加之千八百三
年第五回英國ノ政府ヨリ強償ノ令初編第二卷ヲ
出タシテ英國所領ニアル佛船ヲ取押ヘシニナボ
レオニハ佛蘭西國內ニ居ル英人ヲ捕ヘ士商ノ別
ヲ問ハス盡ノ獄ニ繫テ其離ヲ復シ英佛ノ敵對復
タ一新セリ佛兵大舉シテ英ヲ攻メントシ軍裝ヲ
整ル代ニ當テ遇國内ニ亂ヲ生シナボレオニ殺

サン・ト・スル者アリ、乃チ其黨類ヲ捕テ刑ニ處シ此

勢ニ乘シテナポレオンハ帝位ニ昇ラントシ使ヲ

羅馬ニ遣テ法王ヲ召シ一千八百四年第十二月二日

パリスニ於テ即位ノ禮ヲ行ヒ佛蘭西皇帝第一世

ナボレオント稱セリ歐羅巴ノ人驚懼ヤザル者ナ

シ

西洋事情二編卷之三終

福

2-22

著作